

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

1 調査対象（学校数、児童生徒数は特別支援学校を含んだ数）

	対象学校数	児童生徒数
小学校(第5学年)	304校	13,641人
中学校(第2学年)	163校	13,450人

※調査実施期間：令和7年4月から7月末までの期間

※特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の状況等を考慮して、参加の是非を判断。義務教育学校、中等教育学校（前期）を含む。

※スポーツ庁の考察コメントの基準により、群馬県の結果を考察。

2 実技に関する調査

【体力合計点】(80点満点)

〈小学校〉

		令和7年度	全国比較
男子	本県	53.13	+0.11
	全国	53.02	
女子	本県	54.75	+0.78
	全国	53.97	

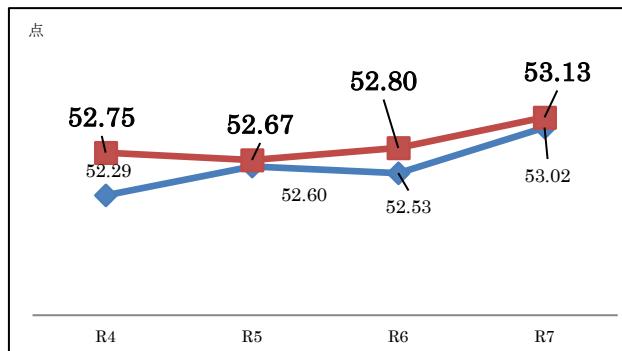
【体力合計点】(80点満点)

〈中学校〉

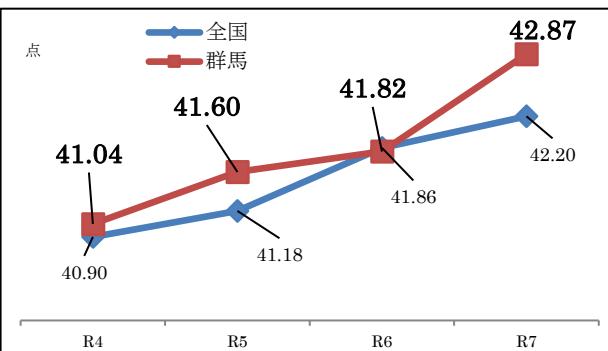
		令和7年度	全国比較
男子	本県	42.87	+0.67
	全国	42.20	
女子	本県	48.98	+1.40
	全国	47.58	

【体力合計点の推移】

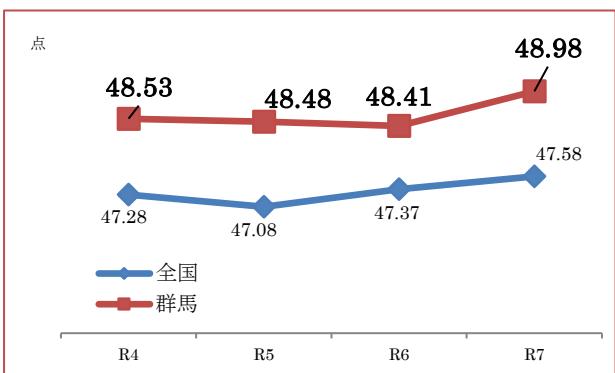
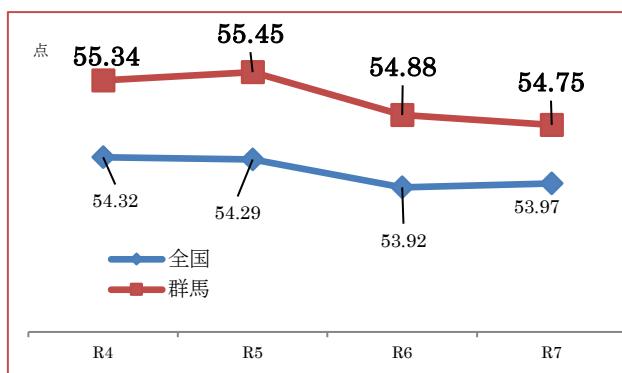
〈小学男子〉



〈中学男子〉



〈小学女子〉



〈体力合計点について〉

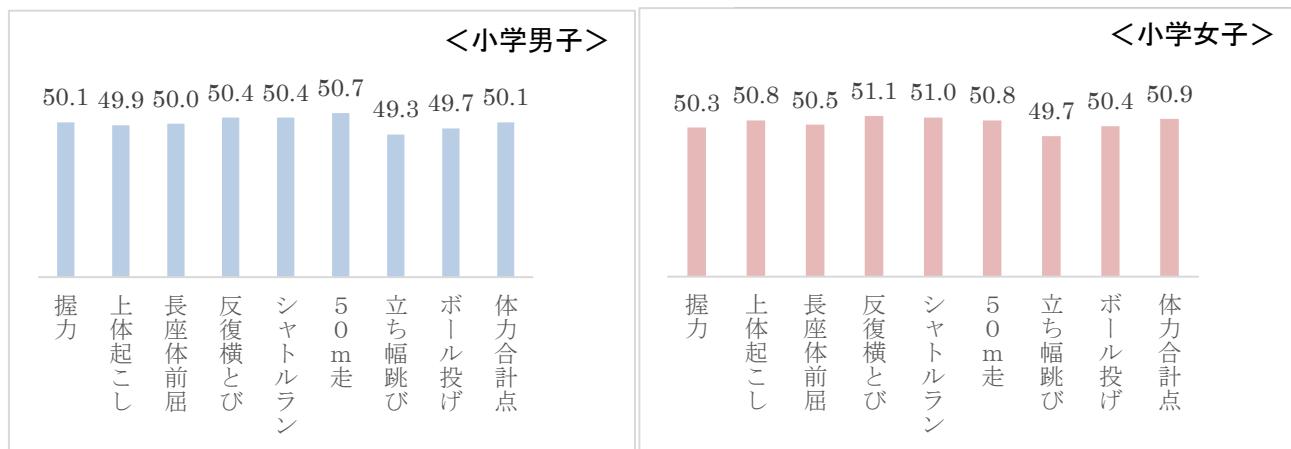
- 小学男女、中学男女ともに全国平均を上回った。
- 小学男子、小学女子は前年度とほとんど差がみられなかったが、中学男子が前年度より高く、中学女子が前年度よりわずかに高かった。
- 小学女子、中学女子は、ともに全国平均より上回っている傾向が続いている。

【各項目の結果】

〈小学校〉

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	15.99	19.40	33.90	41.21	48.72	9.43	149.37	20.85
	全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06
女子	本県	15.71	18.79	38.63	39.49	38.37	9.69	141.56	13.30
	全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11

T得点：全国平均値に対する相対的な位置、平均値50

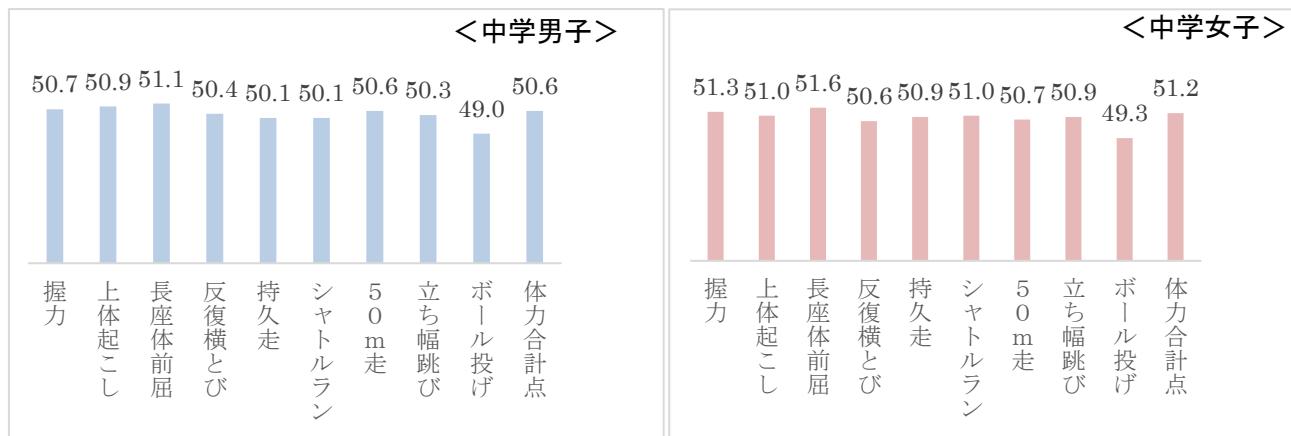


〈中学校〉

※持久走とシャトルランは、どちらか選択。

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	29.46	26.65	46.34	52.01	406.24	79.05	7.94	198.49	20.12
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	409.25	78.82	8.00	197.51	20.74
女子	本県	23.75	22.31	48.72	46.21	304.78	52.53	8.85	168.88	12.15
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	309.66	50.60	8.97	166.44	12.43

T得点：全国平均値に対する相対的な位置、平均値50



〈各項目における傾向について〉

○小学校において、男子は上体起こし、立ち幅跳び、ボール投げ以外の項目で全国平均を上回っており、女子は立ち幅跳び以外の項目で全国平均を上回っている。

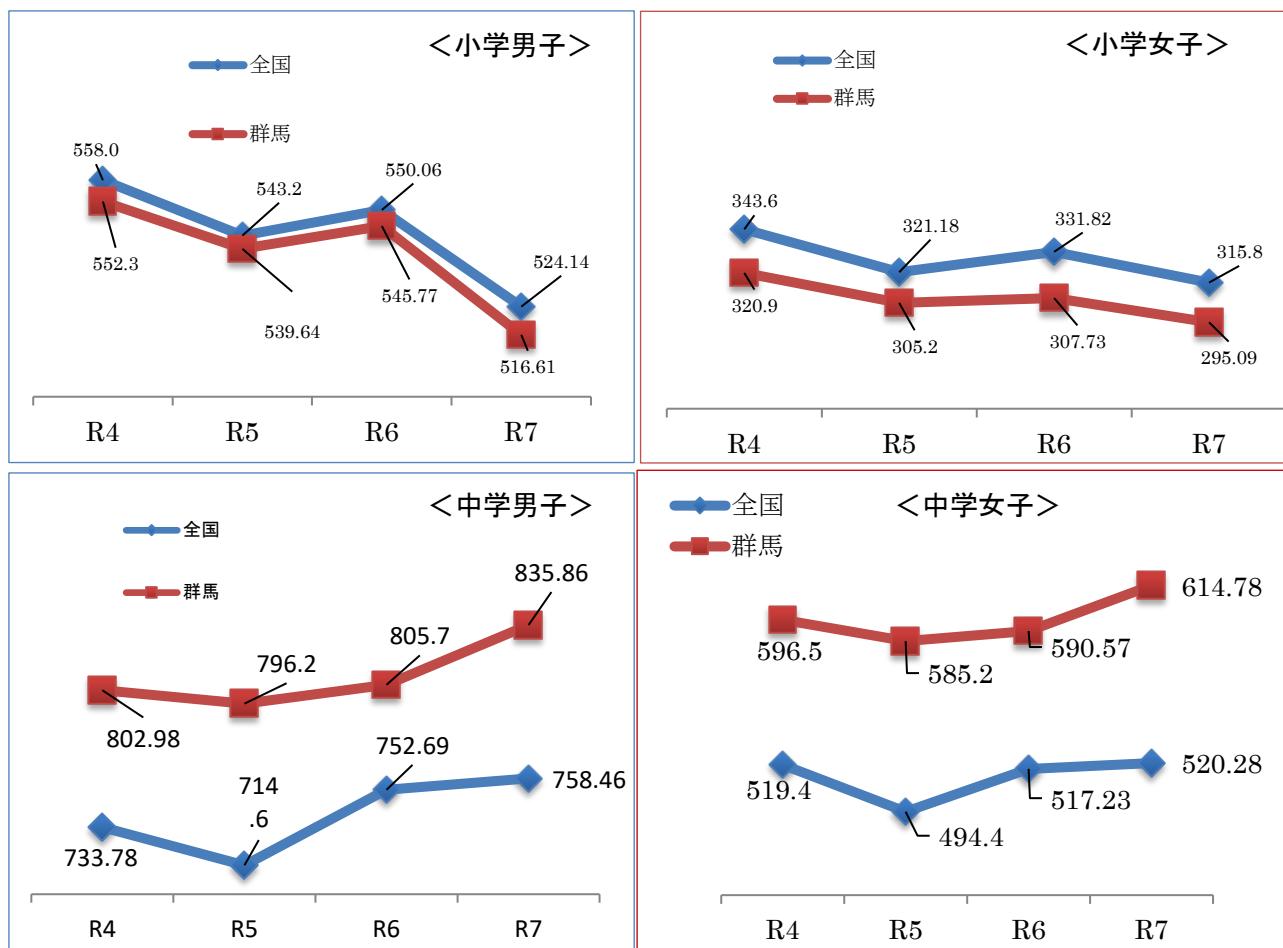
○中学校において、男子、女子ともにボール投げ以外の項目で全国平均を上回っている。

3 児童生徒質問紙調査

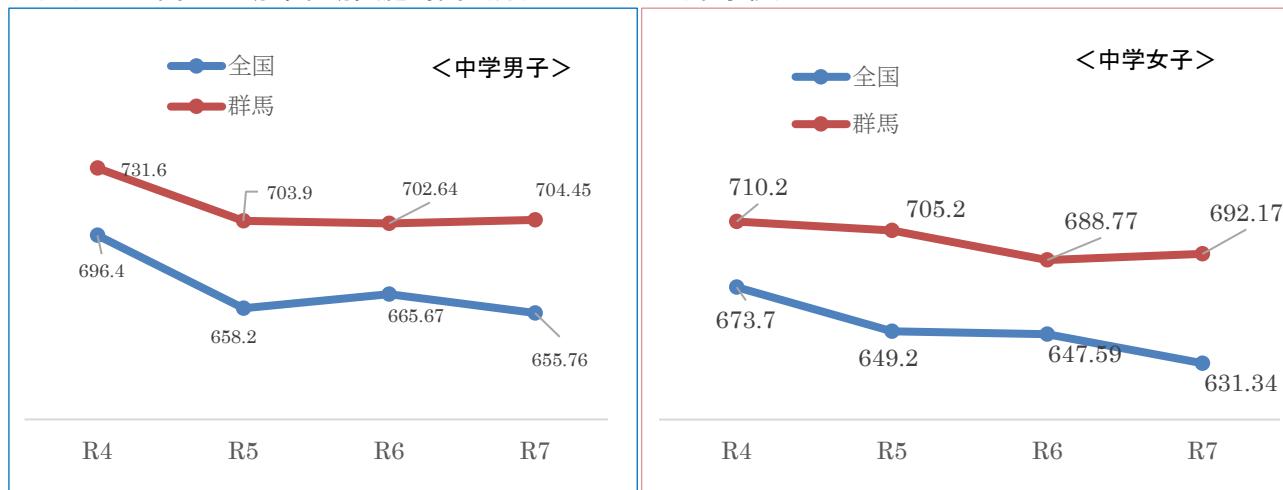
〈全国と比較したときの本県の特徴〉

(1) 体育の授業時間以外での運動やスポーツについて

・ 1週間の総運動時間平均 (分)



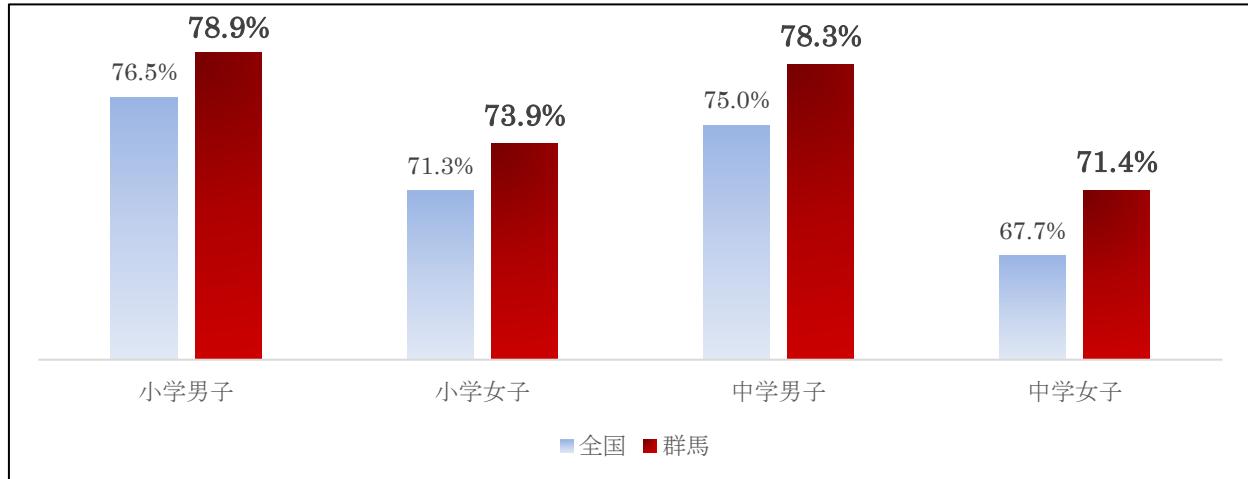
(2) 1週間の運動部活動実施時間 (分) について (中学校)



○ 1週間の総運動時間平均 (分) において、小学男女は、全国平均とほとんど差がなく、中学男女は全国平均より長かった。

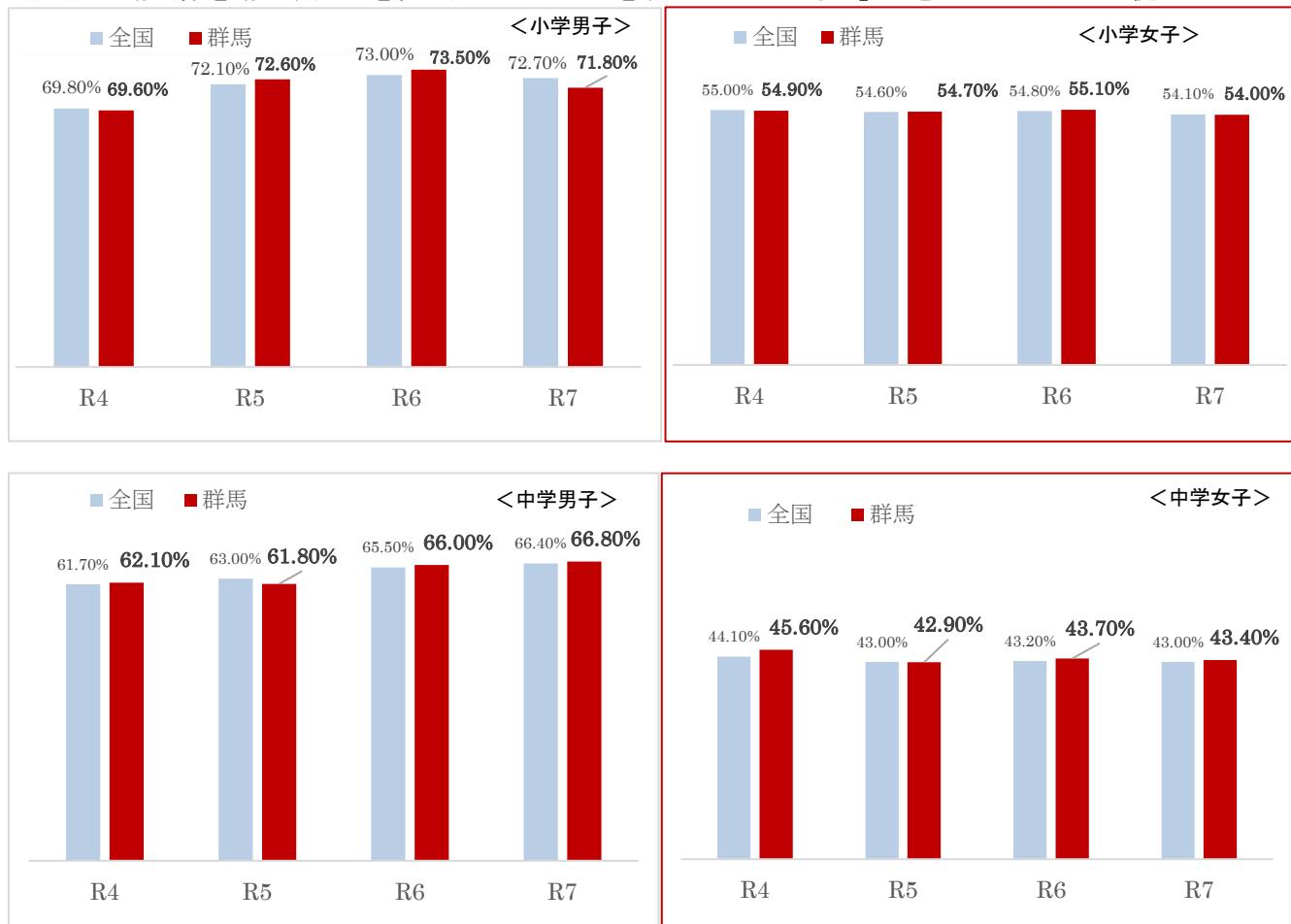
○ 1週間の運動部活動実施時間 (分) において、中学男女とも全国平均より長かった。

(3) 体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒について



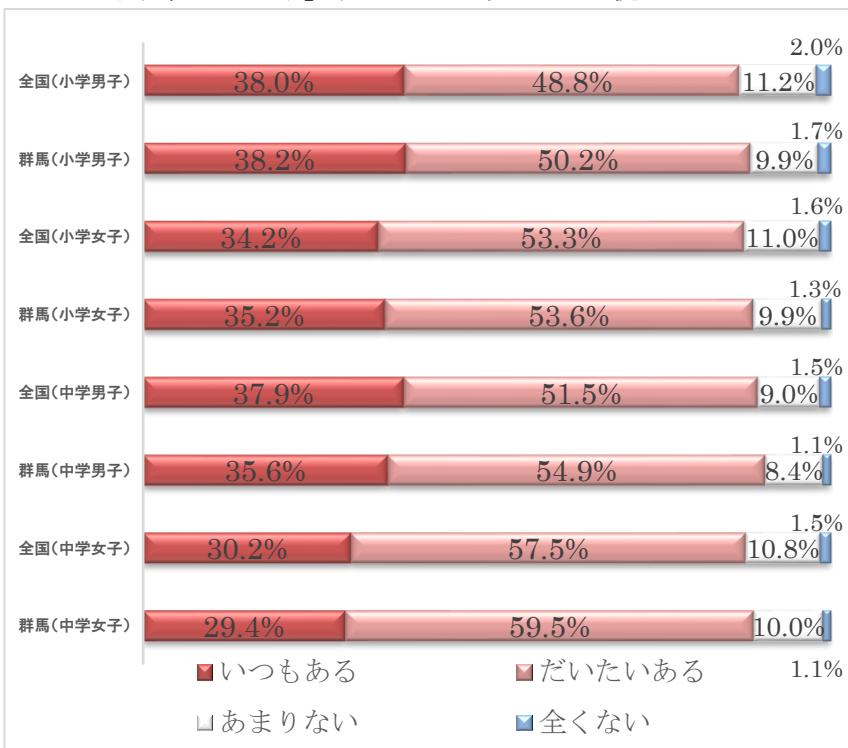
○体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒の割合は、小学男女、中学男女で全国平均より高かった。

(4) 運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが「好き」と感じている児童生徒について



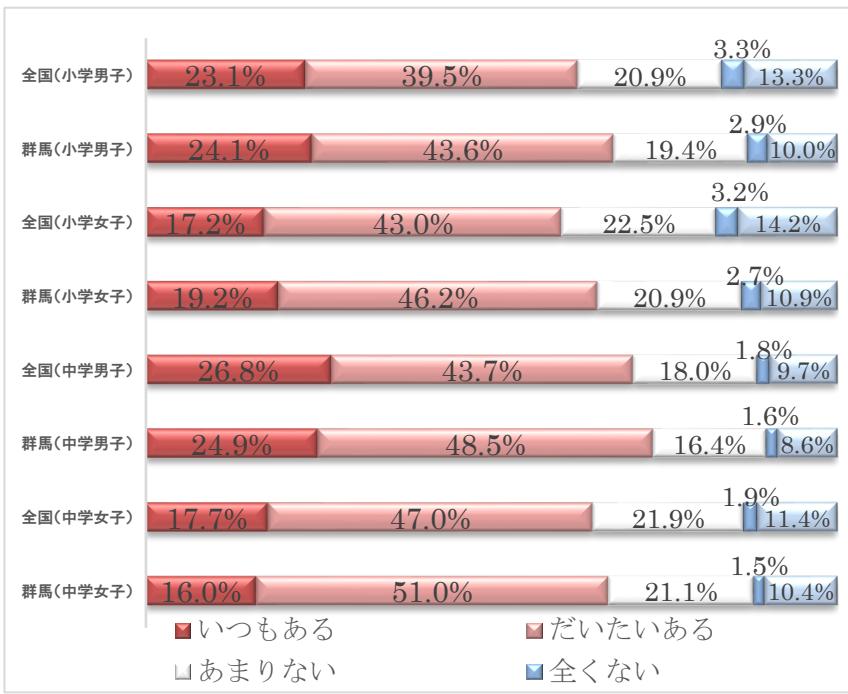
○「運動やスポーツをすることが好き」と感じている児童生徒の割合は、小学男女、中学男女で全国平均とほとんど差がみられなかった。また、中学男子、中学女子は前年度とほとんど差がみられなかったが、小学男女は前年度よりわずかに下がった。

(5) 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することができる児童生徒について



【助けあつたり、教え合つたりしている様子】

(6) 体育・保健体育の授業で、タブレットなどの ICT を使って学習することで、「できたり、わかったり」することができる児童生徒について



【タブレットなどの ICT を使って学習している様子】

- 友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することができる児童生徒は、全国平均と比べて、小学男女、中学男女ともにわずかに高かった。
- タブレットなどの ICT を使って学習することで、「できたり、わかったり」することができる児童生徒は、全国平均と比べて、小中男女とも高かった。
- 友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで「できたり、わかったり」することができる児童生徒は、本県小中学男女でほとんどであり、タブレットなどの ICT を使って学習することで「できたり、わかったり」することができる児童生徒は、本県小中学男女で6割程度であった。

(7) 平日(月～金曜日)の学習以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ているか。

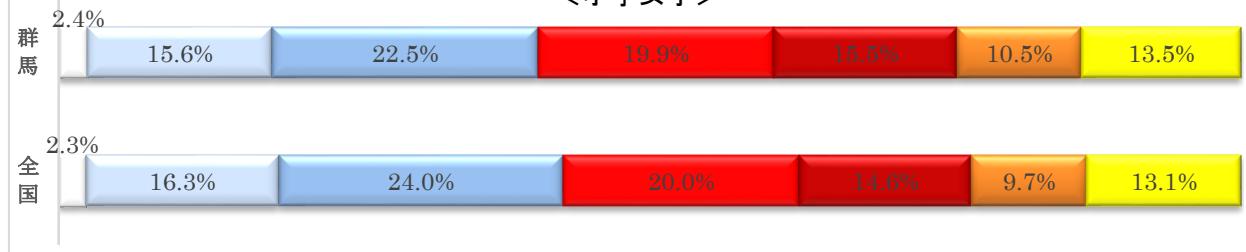
全く見ない 1時間未満 1時間以上2時間未満 2時間以上3時間未満

3時間以上4時間未満 4時間以上5時間未満 5時間以上

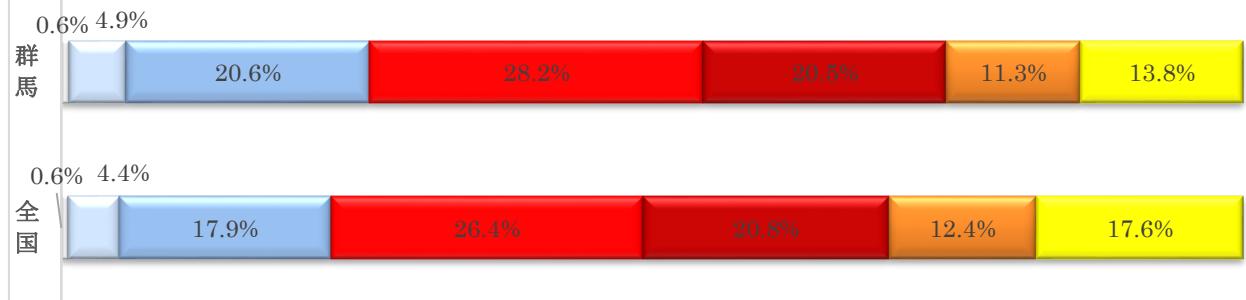
<小学男子>



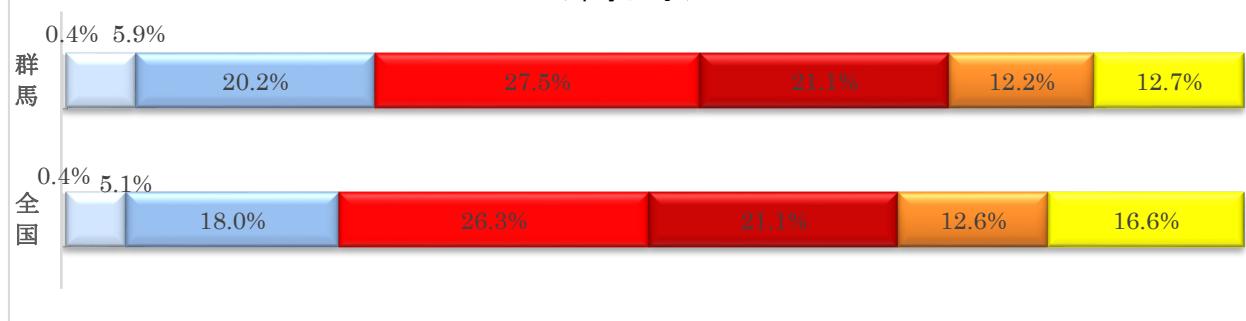
<小学女子>



<中学男子>



<中学女子>



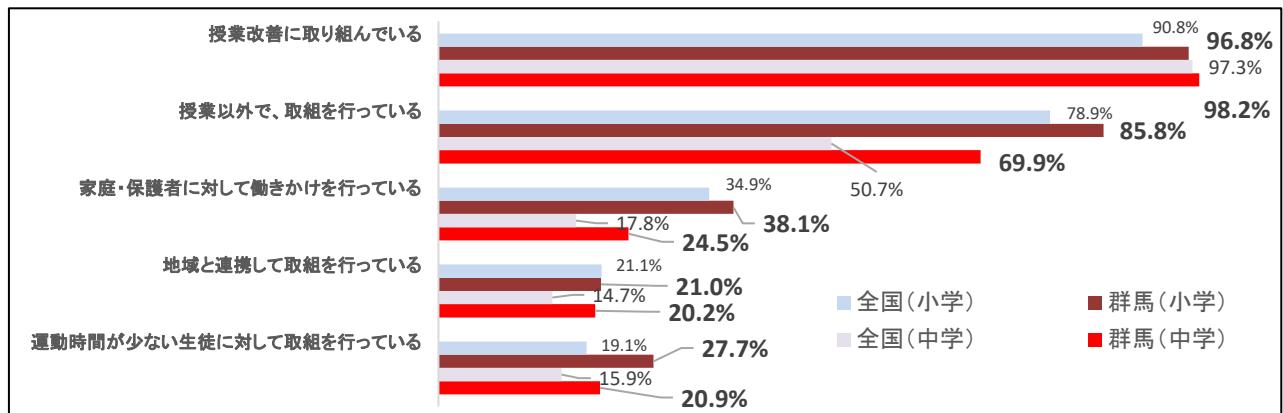
○全国同様、本県小学男女の6割程度、中学男女の7割以上の児童生徒が、平日の学習以外で2時間以上、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている。

○平日の学習以外で2時間以上、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている児童生徒は、小学男女で全国平均を上回ったが、中学男女で低かった。

4 学校質問紙調査

〈全国と比較したときの本県の特徴〉

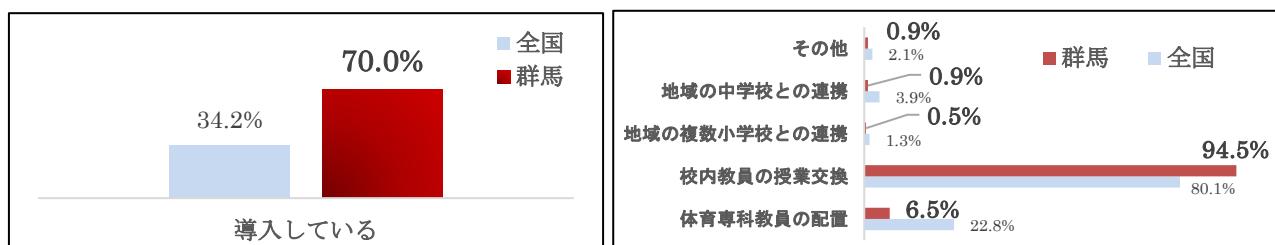
(1) 学校全体として児童生徒が主体的に体力向上に取り組むためにどのような取組をしているか。



○学校全体として、児童生徒が主体的に体力向上に取り組むためにどのような取組をしているかについて、ほとんどすべての小中学校が、授業改善に取り組んでいると答えており、全国平均を上回った。

〈体育の授業の教科担任制について〉 ※小学校のみ

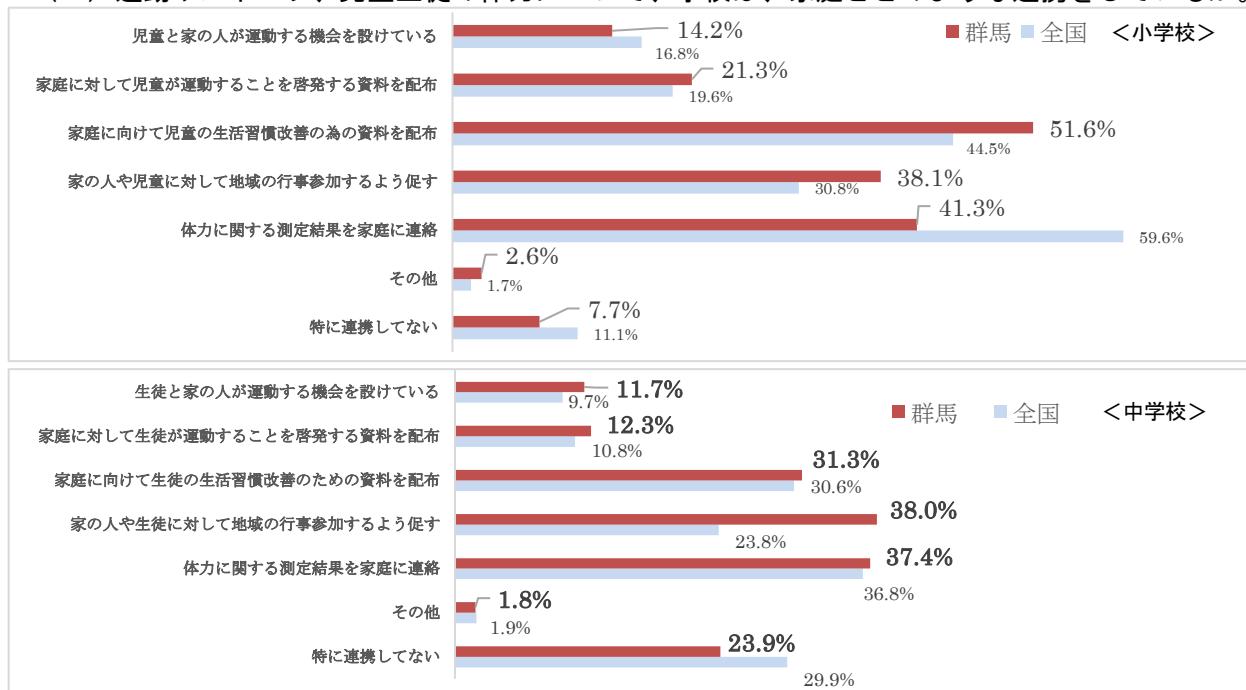
(2) 体育の授業で教科担任制を導入しているか。教科担任制を導入している場合、具体的な取組はどんな内容か。(複数回答可)



○小学校体育の授業の教科担任制について、導入していると答えた学校が全国平均に比べて高かった。
また教科担任制を導入している学校は、校内教員の授業交換をしている場合がほとんどであり、全国平均に比べて高かった。

〈家庭との連携〉

(3) 運動やスポーツ、児童生徒の体力について、学校は、家庭とどのような連携をしているか。



○運動やスポーツ、児童生徒の体力について、家庭に向けて児童生徒の生活習慣改善のための資料を配布したり、家人の人や生徒に対して地域の行事参加するよう促したりする等、ほとんどの小学校、7割程度の中学校が家庭と連携をとっている。

5 体格に関する調査 <肥満傾向の児童生徒の出現率について>



○肥満傾向（高度肥満十中度肥満十軽度肥満）の児童生徒の出現率は、小学男女が全国平均と比べて高かった。また中学男女が全国平均と比べてわずかに高かった。
○前回と比べて小学男女、中学男女はほとんど差がみられなかった。

6 成果と課題

<成果>

- ◎体力合計点について、小学男女、中学男女ともに全国平均を上回った。
- ◎学校全体として、児童生徒が主体的に体力向上に取り組むためにどのような取組をしているかについて、ほとんどすべての小中学校が、授業改善に取り組んでいると答えており、全国平均を上回った。
- ◎友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することのある児童生徒は、全国平均と比べて、小学男女、中学男女ともにわずかに高かった。
- ◎タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがある児童生徒は、全国平均と比べて、小中男女とも高かった。
- ◎友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで「できたり、わかったり」することがある児童生徒は、本県小中学男女でほとんどであり、タブレットなどのICTを使って学習することで「できたり、わかったり」することがある児童生徒は、本県小中学校男女で6割以上であった。
- ◎体力向上の推進や体育授業のモデル作成にかかるモデル校を指定し、多様な「できる」を目指す体育授業を公開したり、中学・高等学校の連携を図ったりするなど、モデル校の取組の成果を県内各小中学校に発信しており、体力向上や体育授業の改善や質的向上につながっていると考えられる。



【小学校体育授業の公開：ボール運動 タグラグビー 助け合ったり、教え合ったりしている様子】



【中学校体育授業：武道 タブレットなどのICTを使って学習している様子】

- ◎本県7割の小学校が、体育授業で教科担任制を導入したり、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」する実感につなげて児童の主体的・対話的で深い学びを生み出すなど、学校全体で体育授業の充実に取り組んでいる。
- ◎運動やスポーツ、児童生徒の体力について、家庭に向けて児童生徒の生活習慣改善のための資料を配布したり、家人や生徒に対して地域の行事参加するよう促したりする等、ほとんどの小学校、7割程度の中学校が家庭と連携をとっている。
- ◎学校全体として、児童生徒が主体的に体力向上に取り組むための授業改善に取り組んだり、教科担任制を導入したりすることで、多様な「できる」を目指した体育・保健体育の授業の質的向上、学校と家庭との連携体制の充実につながっている。



【中学校体育授業：弓道　中学・高校で連携し、授業改善に取り組んでいた】

<課題>

- 肥満傾向の児童生徒の出現率は、全国平均と比べて小中学校いずれも高い傾向が続いている。

7 今回の結果を踏まえた今後の対策

今回の結果から得られた成果・課題を踏まえ、体力向上にかかる情報提供や研修等をより一層充実させるとともに、以下の対策を重点的に行う。

- (1) 児童生徒が友達や仲間とかかわりながら、自分で考え、自分で決めて、自分で体を動かす楽しさや喜びを味わい、運動できる機会を自分で確保することができるようとする。
※第4期群馬県教育振興基本計画 群馬県教育ビジョン（2024年3月 群馬県教育委員会）を踏まえ、身体活動の充実とスポーツを楽しむ意識の醸成を図る。
- (2) 県内全ての小中学校で取り組んでいる「体力向上プラン」に基づく取組を継続しつつ、体育授業及び体育授業以外で運動意欲を高めたり、友達や仲間とともに運動の楽しさや喜びを実感したりしながら、運動やスポーツの価値を深く学ぶことができるようとする。
※年度末には、体力向上につながる授業実践例等、活用できる資料「ぐんまの子どもの体力向上ガイドブック」を県内全ての小学校、中学校に引き続き配布できるようにする。
- (3) 家庭や関係機関（学校医や学校給食センター等）、有識者と引き続き連携し、肥満傾向の対策を含め、児童生徒の健康的な生活習慣を目指した取組を推進する。